

にしおきたまちいき すいとう

## 西置賜地域の水稲かんがいを守る

～白川ダム完成以来最低の降雨量を記録～

平成27年8月6日に最上川水系渇水対策支部『注意体制』が設置され、現在も継続中です。

白川ダム流域では、ダム完成以来最低の降雨量（7月～8月の累加雨量）を記録しましたが、関係する利水者との綿密な連絡調整と協力体制による白川ダムの運用を行うなど、渇水に対し関係機関が一丸となって取り組み、渇水を乗り切ることができました。

7月～8月の累加雨量がダム完成以来最低を記録した白川ダムでは、近年最も渇水が深刻となった平成24年と同程度の貯水率で推移していることから、かんがい用水等への安定的な水供給への影響や河川環境の悪化が懸念されました。

そのため、関係する利水者との綿密な連絡調整と協力体制をとり、ダムからの補給と利水者の節水・番水制等の水利用の工夫により、西置賜地域のかんがい用水の供給を確保するとともに、河川の生態系への影響が生じないように努めており、かんがい期末（9月8日）まで必要な水量を補給します。

### ■白川ダム流域の降雨状況

○稲作で最も水を必要とする「穂ばらみ期」を含む7月～8月の累加雨量は、昭和56年のダム完成以来最低を記録しました。

[7月～8月流域平均雨量（mm/2ヶ月）]

- ・5ヶ年平均 404mm
- ・平成24年 256mm
- ・平成27年 195mm（5ヶ年平均の約48％、平成24年の約76％）

### ■白川ダムの運用状況

○ダムへの7月～8月の総流入量も、昭和56年のダム完成以来最低を記録したが、関係する利水者との綿密な連絡調整と協力体制によるダム運用により、必要な水量を補給しました。

[7月1日以降の白川ダムからの補給日及び補給量（8月26日現在）]

- ・57日間の内50日間の補給 約88％
- ・50日間の合計補給量 約1,083万m<sup>3</sup>（東京ドーム約9杯分）
- ・一日平均 約22万m<sup>3</sup>の補給

※補給量：ダムへの流入量以上にダムから放流（利水取水）を行った日及びその放流量（取水量）が流入量を上回った量の総量（m<sup>3</sup>）

### ■白川ダム利水補給の効果

○置賜地域1市2町（長井市、飯豊町、川西町）約4,000haの水稲かんがい用水を補給しました。

○飯豊町約7,200人の水道用水を補給しました。

<発表記者会> 山形県庁記者クラブ、米沢記者倶楽部

<お問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局 最上川ダム統合管理事務所

技術副所長	<small>たかはし</small> 高橋	<small>ながゆき</small> 長幸
管理課長	<small>おおかわら</small> 大河原	<small>まさよし</small> 正吉

〒990-0732 山形県西村山郡西川町大字砂子 158

電話：0237-75-2311 Fax：0237-75-2048

# 西置賜地域の水稲かんがいを守る

～白川ダム完成以来最低の降雨量を記録～

## ①降雨量とダムの状況【P2～P3参照】

- ダム流域の7月～8月の累加降雨量は、昭和56年ダム完成以来最低を記録。
- ダムへの7月～8月の総流入量は、昭和56年ダム完成以来最低を記録。
- ダムの貯水率は19%（8月26日現在）。

→「農業用水等への安定的な水供給への影響」や「河川環境の悪化」が懸念された。

## ②ダムの取組み【P4参照】

- 白川ダムでは、関係する利水者と綿密な連絡調整と協力体制の強化を図った。

→その結果、ダムからの補給と利水者の節水・番水制等の水利用の工夫により、  
安定的な水供給（補給）が可能となった。

## ③関係機関の取組み

- かんがい用水供給区域の利用者である白川土地改良区では、  
「6月17日からの番水制による水利用の工夫」と「8月19日より25%程度の節水努力」を行った。
- 発電用水利用者である山形県企業局村山電気水道事務所では、  
かんがい用水の節水によりダム放流量が減少し発電最低取水量を下回ったため、  
8月19日から発電を停止し水供給の安定化に寄与した。

## ④白川ダムからの利水補給による効果【P7参照】

- 置賜地域1市2町（長井市、飯豊町、川西町）約4,000haの水稲かんがい用水を確保し、  
水稲の健全な生育に寄与した。
- 飯豊町上水道における給水人口約7,200人の水道用水を確保し、  
安定的な水道水供給に寄与した。

# 平成27年渇水における白川ダムの概況

## ◆7月～8月の降雨量（8/27現在）

○ダム流域の7月～8月の累加雨量は、昭和56年のダム完成以来最低※を記録した。

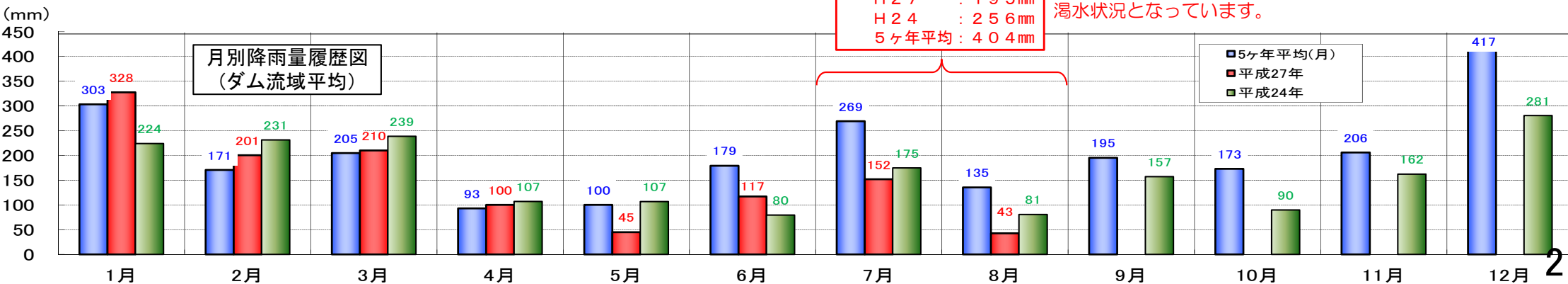
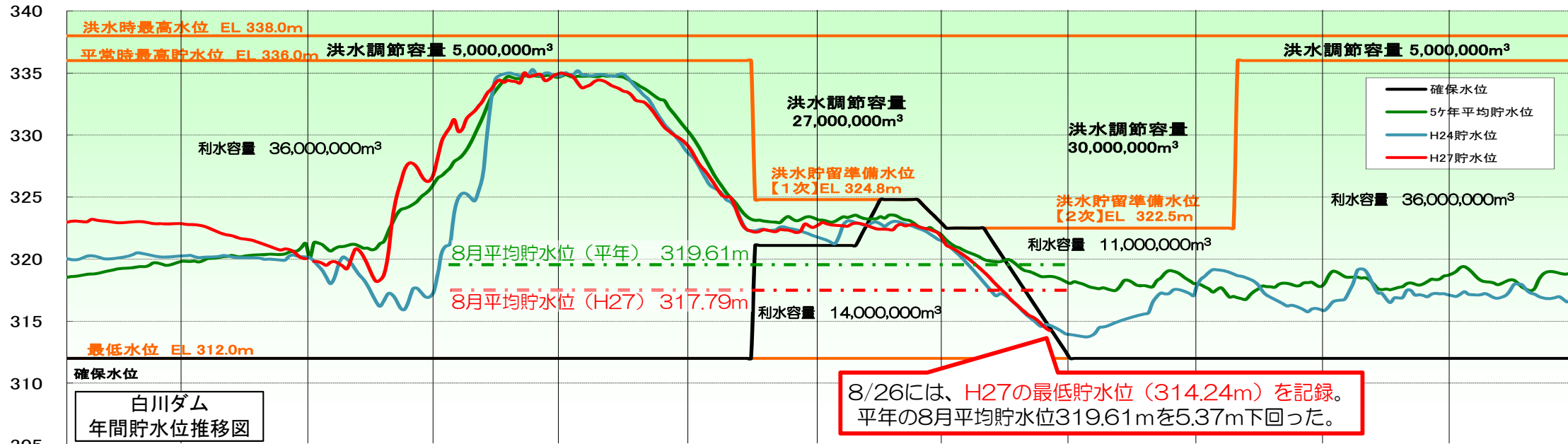
○これは、近5ヶ年平均の約48%しかなく、また最も渇水となった平成24年の約76%となっている。

H27：195 mm/2ヶ月，H24：256mm/2ヶ月，5ヶ年平均：404 mm/2ヶ月

※ これまでの7月～8月の最低累加雨量は、昭和59年の224mm/2ヶ月

## ◆貯水位（8/27現在）

○ダムの8月の平均貯水位は、317.79mとなっており、5ヶ年平均の8月平均貯水位319.61mを1.82m下回っている。



# 平成27年渇水における白川ダム の概況

## ◆貯水池の状況

○白川ダムでは、ダムから補給した結果、約1ヶ月で貯水位が約8m低下し、貯水量も約2,116千 $m^3$ （貯水率19%）まで低下した。

平成27年7月17日



貯水位	EL. 322.42m
貯水容量	10,925千 $m^3$
貯水率	99%

平成27年8月26日



貯水位	EL. 314.24m
貯水容量	2,116千 $m^3$
貯水率	19%

# 平成27年渇水における関係機関との連携・調整

- ◆5月以降の小雨傾向により、農業用水等への安定的な水供給への影響や河川環境の悪化が懸念されたため、8月6日に「最上川水系渇水対策支部（**注意体制**）」を設置し、適正な取水管理や渇水時の迅速な対応を図るため、利水関係者等と連携を図り、渇水被害の防止・軽減に努める。
- ◆8月7日に「最上川水系渇水情報連絡協議会（幹事会）」を開催し、関係機関の情報交換を行い、認識の共有を図り、今後の節水への協力を呼びかける。
- ◆8月中旬には、白川ダム水利関係機関と貯水位低下に伴う今後の取水計画及びダムからの補給計画について調整をした。  
その結果、8月19日より、かんがい用水供給区域の利用者による**25%程度の節水努力**と発電用水利用者による発電停止を行った。
- ◆8月25日に「第1回 白川ダム水利調整会議」を開催し、白川ダムの状況と利水状況等について、関係機関と情報交換・共有を行い、8月19日より実施している**25%程度の節水を継続し、かんがい期間（9/8）のかんがい用水供給確保に努めていく**ことを合意。

## 適切な流水管理に向けた取組みと渇水対策体制の経緯一覧

月 日	会議名等	議事内容等
6月1日	最上川水系渇水情報連絡協議会	関係機関との連絡調整・協力体制等の共有
6月18日	白川水利調整会議	白川ダム水利関係機関との連絡調整・協力体制等の共有
8月6日	最上川水系渇水対策支部（注意体制）	
8月7日	最上川水系渇水情報連絡協議会（幹事会）	最上川流域の流況状況と今後の予報を報告し、渇水対策について意見交換を実施
8月11日～ 20日	白川ダムの水利関係機関との水利調整	8月19日より、かんがい供給区域の25%程度の節水努力及び発電停止を決定。
8月25日	第1回 白川ダム水利調整会議	白川ダムの状況と利水状況等について、関係機関と情報交換・共有を行い、今後の対応について意見交換を実施。